山 行 報 告 書

作成:2013 年 8 月 16 日

愛知岳連　岡崎山岳会

山名[山域]	黒部川上ノ廊下遡行～東沢谷下降	目的[方法]	激流と向き合う沢旅を楽しむ
期間	8 月 10 日(土)～15 日(木)前夜発	形態	5 泊 6 日沢登り
参加人数	5人(OAC2人,CAC2人,GSA1人)		

行動記録:

◇8/9(金) 晴れ

自宅(1900)==Y 田宅(2000)==T 木宅 PKG(永田 PU)==I 川 PU(2150, 2200) ==4:00==扇沢駅 PKG(0200) 駅構内就寝 (0300)

8/10(土) 晴れ

起床 (520) 扇沢駅始発 (630) ++ﾄﾛﾘｰﾊﾞｽ(片道 1500 円+手荷物 200 円)++黒四ダム駅発 (655, 710) ---平の小屋 (1103, 1200) ---針ノ木谷側右岸 (1220) ---奥黒部ヒュッテ TS 1 (1403) -就寝 (2000)

8/11(日) 晴れ

起床 (500, 806) --黒部川上ノ廊下入渓 (815) --熊ノ沢出合 (840) --下の黒ビンガ (1010) ---口元ノタル沢出合 (1058) --口元ノタル沢出合先(ﾛｰﾌﾟ泳ぎ第 1 の難所) --廊下沢出合 (1255) --中ノタル沢出合 (1318) --スゴ沢出合 (1326) ---上の黒ビンガ前 TS 2 (1415) -就寝 (2130)

8/12(月) 晴れ

起床 (500, 738) --金作谷出合 (833) --金作谷出合先(ﾛｰﾌﾟ泳ぎ第 2 の難所) --赤牛沢手前泳ぎ嫌い右岸高巻･懸垂--赤牛沢出合 (1425) --立石･岩苔小谷出合(1438, 1508)-高天原赤矢印支尾根へ (1526, 1535) ---高天原温泉 2048m (1716) TS 3 就寝 (2130)

8/13(火) 晴れ

起床 (500, 727) --高天原山荘 2068m (740) --水晶池 (852) --岩苔乗越 2730m (1041, 1057)--水晶小屋 2900m (1152, 1235) --東沢乗越 2737m(1307, 1331)--東沢谷 2168m (1552) TS 4 就寝 (2000)

8/14(水) 晴れ

起床 (500, 635) --P1937m (807) --1814m 地点 (919, 930) --三ノ沢出合 1713m (1020)--二ノ沢出合 1658m (1040) --1614m 地点(1131)--一ノ沢出合 1609m (1141) --1545m 地点東沢脱出(1244)--読売新道 1592m(1317, 1327)--奥黒部ヒュッテ 1507m(1338)TS 5 就寝 (2000)

8/15(木) 晴れ時々曇り一時雨

起床 (500, 655) --平ノ渡場右岸 (845) --避難小屋見物 (900, 940) --平ノ渡場 (953, 1020)--平ノ小屋 (1035) --ロッジ黒四(1320, 1355)--黒四ダム駅 (1435, 1505) ++ﾄﾛﾘｰﾊﾞｽ(片道 1500 円+手荷物 200 円)++扇沢駅(1525, 食事 1610)==大町温泉(1640, 1745)==安曇野 IC==春日井 IC==I 川宅(2200)==T 木宅(2230)== Y 田宅(2300)==自宅 (2330)

概念図:

日誌:

週間予報では晴天が続くもようで決行する。それぞれ P/U しT 木氏ハイエース配車で最後のＩ川氏を P/U し春日井 IC22 時頃入る安曇野 IC で降り「道の駅松川」宿泊は止め、直接扇沢駅に入る無料駐車場は一杯でﾃﾝﾄ設営は止め、すぐ入山できる格好に山仕度し駅構内で寝る事にした。軽く宴会し 3 時に就寝したが土産屋さんの車が入り 5 時に起された。

8/10（土）5 時 40 分から切符販売で土日 6 時 30 分始発の乗車券が買えるため並ぶが既に長蛇の列となっていたが難とか購入でき始発に乗る。ここでＩ村が共同装備の9ミリ3Oメートルザイルを家に忘れたことに気が付き大きなミスを犯してしまい反省する。Ｉ川氏の 30mザイルとＴ木氏の 20m補助ロープの 2 本でスタートする。ダム放水は見物せずスルーで黒部湖左岸に付けられた気持ちの良い登山道を平ノ小屋に向う、途中I村が左足首を軽く捻挫したがT木氏のテーピングで難とか歩けそうだ。平ノ小屋に 1 時間早く着き 250 円ネクターや 600 円ビールで喉を潤し12時まで雑談する。平ノ渡しはダム完成に伴い登山道が水没したため無料である 6 時 10 時 12 時 14 時 17 時で無雪期は毎日運行している。15 人乗りの船で今日は登山者が多かった為 2 回に分けられた 15 分程で右岸に運んでくれる、右岸を奥黒部ﾋｭｯﾃまでｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝの多い登山道を 2 時間半で東沢出合にある奥黒部ﾋｭｯﾃに着いた。ﾃﾝﾄ代 500 円/1 人を払いビールを購入し上ノ廊下の状況を主人に聞くと水量は平水よりやや多く熊ノ沢で引き返したパーティーはいるが行き切ったパーティーはまだいないとのことで考えさせられる。予備日用の朝夕 5 人分食料のデポをﾋｭｯﾃ主人にお願いすると快く引き受けてくれた。Ｉ川氏の釣った岩魚の刺身の夕食は格別においしかったです、そのあとY田氏が酔っ払って川に落ちたにも関わらず釣れてしまった岩魚は明日の朝の味噌汁に入れて頂くことにした全く、酔拳釣法だね

8/11（日）今日も天気が良い。10℃以下の低水温のため日が昇る 8 時に出発するネオプレン靴下にネオプレンウエットズボンに防寒防水性の強いﾌｧｲﾝﾄﾗｯｸのシャツと防寒手袋で身を固め荷物は 22kgである。上ノ廊下の出だしは広い、すぐに徒渉で 3 人と 2 人に別れてスクラムを組んで浅瀬を選んで徒渉方法を試しながらしばらく徒渉を繰り返す、軽い人が流される事があったため考え、ダブルスクラム（前 3 人に後 2 人がつかまえる騎馬戦スタイル）が強固であることが判りこれで深い徒渉を繰り返して進むと下の黒ビンガが左岸にはばかり圧倒されるが腹程度の水深で徒渉できた為平水より少し多い程度と思われる。**ロ元ノタル沢先**で最初のロープを出す(**ロープ泳ぎ第1の難所**)N田氏が空荷で中間まで腹程度でへツリ、カムで支点をとりロープを掛ける更にその先は深く胸まで水につかりつま先で蹴って右岸壁を手でつかんでへツリ難とか浅瀬にたどり着くN田氏に感謝、2番手以降は各自ザックを担ぎロープにヌンチャクを掛ける程度ロープを手繰りながら歩く事が出来た、がさらにその先は深く15m泳ぐ必要がある、Y田氏がﾛｰﾌﾟをﾊｰﾈｽに掛けて泳ぐが足が付かず溺れそうなのでロープを引いて戻すとポケットから出た飴が数個渦を巻いていた、今度はI村が決死の覚悟で飛び込んでクロールで泳ぐが流れで進まない平泳ぎに変更して少しずつ進み右岸壁をつかむが手だけでは進まずまた平泳ぎで残った力で思いっきり蹴ってかいて進むと足が付いて岩にたどり着いた。2番手以降はロープに結んだザックをビート板ごとくつかまり、体が回転しないようにバランスをとってもらい一気にロープを引き寄せ難とか突破出来た。その後はスクラム徒渉の連続でクリア出来た、しだいに広い河原状になると上の黒ビンガが見えるこの下はエメラルドグリーンの美しく深いが水流は緩やかで岩魚もいそうなので早いがここで幕営ビバークとする。食当ジャンケンで勝ったので夕食カレーライス、朝食カレーうどんで明日の荷は軽くなるぞ。N田氏が尺岩魚を掛けたが痛恨のハリス切れで岩魚汁は明日におあずけ。ウイスキーと芋焼酎でテンションは上がり夜はふけ満天の星になっている。

8/12(月)テントが明るくなると5時だ、今日も晴れてくれた神に感謝。日が当たらないと寒いためゆっくりと出発準備をしているとプロガイド志水哲也氏率いる5人パーティーが通過する「おはようございます、後でゆっくり行きます。」と挨拶し出発。徒渉を繰り返すと残雪で埋まった金作谷が左岸から濁った泥水を注いでいたその**金作谷出合先**が**ロープ泳ぎ第2の難所**である、左岸をY田氏が胸まで浸かりへつって岩に登る、2番手の私はロープを手繰り寄せて進み岩に登ってY田氏を越えると深かった、が短いため、ザックを置いてロープをﾊｰﾈｽに掛け頭から飛び込んで岩に乗り移る、後は人と荷を手繰り寄せる。先行パーティーが大きな浮き岩を落としてしまったが影響は無く通過できた。その先の深い淵はN田氏が右岸から左岸にロープを引きﾗｲﾌｼﾞｬｹｯﾄをI川氏に借りて勢いを付けて飛び込んでクロールで左岸壁に泳ぎきった。後はロープにザックを掛けザックをつかんでかえるの足様に平泳ぎでバランスを取り引っ張られて5人左岸に渡り金作谷先第2の難所もここまでと思いきや。しかし赤牛沢手前のゴルジュ帯も右岸を胸まで浸かりながらへつって岩に這い上がる先行パーティーを見て、濡れを嫌って右岸壁を高巻くことにする。急な草付き木の根っ子につかまえながら上に登る少し平らな竹やぶをかき分け川に平行に進む次に下降地点を探して川に向うと丁度良い高さに木があり下降支点とし5人とも懸垂下降で河原に降りれた。しばらく徒渉を繰り返すと岩苔小谷出合に到着。休憩後岩苔小谷を 500m程登ると大滝手前の左の岩に「←高天原」と赤ペンキが左支沢へ誘っているそれに従うと右の急な支尾根に導かれそのまま登って行くと次第に緩くなり夢の平・竜晶池先の一般登山道に出るとすぐに高天原温泉に到着今夜はここで竹やぶを開きビバークする、38℃位の露天風呂に入りｻｯﾊﾟﾘしI川氏の釣った岩魚の刺身で上ノ廊下完遡行を祝う。

8/13(火)今日も晴れだ、15 分で高天原山荘に着き挨拶すると我々の格好からか上ノ廊下の状況を聞かれた平水より少し多い水量で 5 人、5 人、5 人の3パーティーがいたと思われると答えた、お花畑でアザミの上部茎をおいしく食べながら抜け雪渓を登ると岩苔乗越で好展望の稜線に出る左に進んで水晶小屋でﾋﾞｰﾙで喉を潤す。ウイスキーを 3 本中身だけ購入し右へ進み東沢乗越から東沢谷の雪渓脇の右岸側を下降して行くが次第に急になる雪渓の安定した所 2450m 付近からバイルか軽ｱｲｾﾞﾝで滑落しないようにトラバスし左岸に移った東沢は岩の水線下は黄色くぬめりがひどく滑り易いしかし岩魚は多そうなにおいがする、2150m 付近に良いテン場があったのでここの草を開きビバークするそしてT木氏が釣った岩魚の味噌汁は簡単でおいしかった。

8/14(水)今日も晴れた。奥黒部ﾋｭｯﾃまで長いため早めの 6 時 55 分に出発、途中N田氏が岩魚をｷｬｯﾁ＆ﾘﾘｰｽして 5 人全員が最低 1 匹は釣ったことになり 6 日間で食した可愛そうな岩魚は全部で 4 匹となったが満足でﾋｭｯﾃに急ぐ、1550m 付近で東沢を脱出すべく左岸を斜登行して 1592m で読売新道に出る。やったぜ。あと 10 分だ、1507m 奥黒部ﾋｭｯﾃに 13 時 38 分到着。明日は一般登山道で帰るだけだ、早く着いた為、ﾋｭｯﾃ前でビールで祝杯をあげて、厳しかった上ノ廊下を省みて達成感がうれしい。樹間 15mをロープでつなぎ物干しを作りそこにガチャ、ウエットスーツ、くつ下、衣服、手袋等、鯉のぼりみたいに物を干し 1 時間ほど昼寝したりしてまったりした時を過ごす最後の食事はﾋｭｯﾃにデポした夕食（ハヤシライス）と余った行動食のつまみ類満載満腹で早めの消灯。

8/15(木)曇り時々晴れのち雨、昨晩はみんないつの間にか早く寝た為、早い出発の 6 時 55 分になった、平ノ渡し場も 8 時 45 分に着き 10 時 20 分出航に早いため針ノ木谷付近の避難小屋を 15 分掛けて偵察に行く、しっかりした作りの小屋で下総面積の半分は砂利、半分は床になっていて 10 人は雨露を防いでビバーク出来そうです。10 時 20 分の渡しで左岸平ノ小屋側に移る、あとダムまで 3 時間半くらい、最後にﾛｯｼﾞくろよんで冷えたコーラを飲むおいしいが雨がぱらついてきたので急いでダムに向うダムに 14 時 35 分に到着全くの観光地に少し興醒めした、15 時 05 分のﾄﾛﾘｰﾊﾞｽに乗る扇沢駅の食堂で黒四ダムカツカレーや私は扇沢ラーメンをおいしく感じ汁まで完食した、そして大町温泉に入り 6 日間の疲れを取る、最後に名古屋についてT木氏宅前で感謝の握手を回しお別れした。

感想:

沢屋にとって黒部川上ノ廊下遡行は 1 度は挑戦したい憧れの沢です、皆さんのお陰で完遡行出来て心からうれしく思います。共同装備の 30mロープを私I村が家に忘れもうだめかと思い反省しました。T木氏が 20m補助ロープをＩ川氏が 30m ロープを持っており、難とか行けると判断し決行してくれた皆さんに感謝します。下の黒ビンガで泳いで渡り少し皆さんの役に立てたことがうれしい。6 日間共に天気は晴れで皆さんの心掛けが良かったためすべてが良い方向に動いてラッキーだと感じました。それぞれが 5 人分×1.2 日分の食料を持ってくる方法は重量、献立を考える苦労はすべて平等で会計の必要は無く良いシステムだと感じました。

参加者名	